

高岡厚生センター運営協議会

日 時 令和 6 年 10 月 3 日 (木) 13 時 30 分～14 時 30 分
場 所 高岡エクール 2 F 201・202 号室
出席者 委員 17 名 代理 3 名 (委員 24 名中)
県 厚生部参事
高岡厚生センター所長 ほか

1 開 会

2 あいさつ (厚生部参事)

3 報告事項

(1) 高岡厚生センター事業の概要について

(2) 近年の食中毒発生状況と予防対策について

4 閉 会

質疑及び意見等

災害時難病患者個別避難計画と福祉避難所について

- 委員 災害発生時、行政としてはいかに避難計画を遂行できるかが重要だと思う。障害などで支援が必要な方々に関しては特別な避難計画が必要かと思う。個別避難計画の策定状況と、災害発生時の福祉避難所は誰が主体となって開設するのか。
- 事務局 難病患者の災害時個別避難計画については、事例検討を行っているところであり、そこへ実際に能登半島地震による災害が起きた、という状況である。
厚生センターと各市町村が事例を共有し、継続して増やしているところである。
福祉避難所について、一次的には市町村が開設するが、厚生センターも開設・運営に関しては、協力していくこととなっている。
引き続き皆様にもご協力いただき、災害時には、円滑に運営できるようにしていきたい。

高岡地域精神保健研究会について

- 委員 高岡地域独自に行っているという、高岡地域精神保健研究会は具体的にどのようなことを行っているのか。
- 事務局 高岡地域精神保健研究会は、知る限り 30 年以上歴史があり、高岡地域独自に行っている研究会である。主には事例検討で、精神保健福祉士やケアマネージャー等にお集まりいただき、事例検討を通じ対応方法を学んでいくという内容で、年 2 回開催している。
- 委員 精神疾患患者は年々増えている、或いは複雑化している印象があるが、この研究会ではどのような事例を発表されているのか。最近の傾向などあるか。
- 事務局 印象としては、核家族化や高齢化も進み、精神疾患患者のケアを、その方のご家族の力に頼っているところであり、社会資源として我々も含めて、市や県はどんなふうにして支援していくかというような事例が、最近は多いように感じている。
- 委員 高齢化に伴って高齢者の精神疾患患者も増えているという印象ということか。
- 事務局 人口全体として高齢者も増えており、それに伴い高齢者の精神疾患患者数も増えている傾向にあると思う。

手洗い設備の水栓の基準について

委員 手洗い設備において、蛇口をひねる構造のものからセンサー或いはバルブ構造のものにするよう、水栓の基準が新たに変わったということだが、どのくらいの施設で、いまだに手で蛇口をひねる水栓が残っているのか。蛇口の交換には数十万円程度の費用がかかると思われ、小さな飲食店では対応が難しいのではないかと思うが、いかがか。

事務局 水栓レバーの交換について、営業許可の更新までの約 5 年の間に徐々に進めていくこととなっているが、おっしゃる通り、中には難しいとおっしゃられる方も結構いらっしゃる。
厚生センターとしては、例えばホームセンター等で購入できる部品ですぐ交換できるような安価な方法を薦めたりなどして、交換をお願いしている。全施設の更新にはまだあと 2 年ほど残ってはいるが、更新が終了した施設、或いは新規施設については、すべて水栓基準を満たしている状況である。

アニサキスについて

委員 アニサキスが最近増えており、マイナス 20 度で予防できるということだが、マイナス 20 度に冷却できる業務用冷蔵庫を持っていない飲食店も結構あるのか。

事務局 スーパーなどの大きな施設では、マイナス 40 度近くまで冷却できる業務用冷蔵庫を完備しているが、施設基準の中には、何度以下に冷える冷蔵庫でなければならないという基準はない。
厚生センターとしては、小さな家庭用冷蔵庫を利用する場合は、気をつけるようお伝えしている。

委員 家庭用冷蔵庫ではマイナス 20 度をキープするのは難しいと思うので、お刺身などを凍らせずすぐに提供することになるのかと思うが、そのような提供方法には怖いところがあるように感じる。